薩摩川内港ニュース

SATSUMASENDAIKOU NEWS SPECIALEDITION

2026年6月 号外

薩摩川内市貿易振興協会

※川内港は、正式名称として使用する場合を除き、通称として「薩摩川内港」を使用しています。

唐浜地区国際物流ターミナル、暫定供用開始

— 令和8年(2026年)3月末

令和３年度より整備が進められてきた川内港唐浜地区国際物流ターミナルが、令和８年３月末に暫定供用されました。新ターミナルは延長 230m・水深 9m（暫定）の耐震強化岸壁を備え、大型のコンテナ船およびバルク船の入港が可能となりました。４月 10 日には、唐浜埠頭にコンテナ船が初入港したことを歓迎し、今後の安全な航海と荷役を祈念するセレモニーを開催しました。４月 14 日には、700TEU 級の大型コンテナ船が初入港し、荷役も安全に滞りなく終了いたしました。また、４月 25 日には、国土交通省・鹿児島県の主催による唐浜地区国際物流ターミナル供用式が、多くの関係者が出席する中、盛大に挙行されました。今後も、川内港を稼ぐ港として、官民一体となったポートセールスに取り組み、鹿児島県全体の産業・経済の発展に尽力して参ります。

唐浜埠頭へのコンテナ船初入港歓迎セレモニー
（令和８年４月 10 日）

供用式におけるテープカット（令和８年４月 25 日）

700TEU 級大型コンテナ船　入港（令和８年４月 14 日）

暫定供用に合わせチューリップ台車（３台）も新たに導入

川内港のあゆみ

川内港は、川内川の河口に位置する河口港です。古くは、京都、奈良方面への海上交通の要衝として、また唐貿易の基地として繁栄し、南九州の産業・文化の発展に寄与してきました。昭和30年代に入り、大々的に新しい港湾を整備し、工業地帯を造成することが計画され、本格的な港湾施設の整備が始まりました。

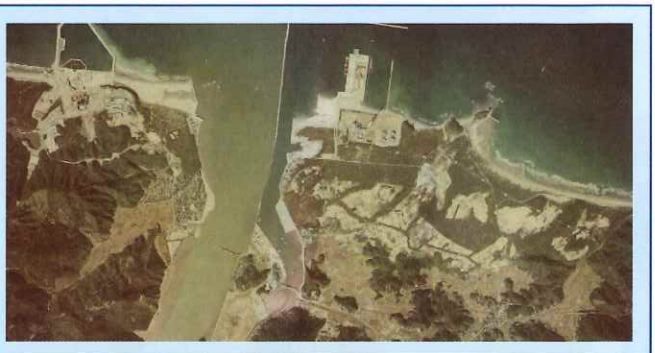
昭和62年の関税法上の開港指定以来、ＣＩＱ機能を段階的に整え、平成16年には、初めて国際定期コンテナ航路が開設されました。近年、コンテナ取扱量も堅調に推移している中、令和8年には大型船に対応した唐浜地区国際物流ターミナルが暫定供用されたところです。起工から半世紀以上にわたる川内港のあゆみを航空写真とともにご覧ください。

川内港発展の軌跡

昭和22年(1947年)　地方港湾指定
昭和34年(1959年)　京泊地区建設起工式
昭和45年(1970年)　重要港湾指定

昭和46年(1971年)

昭和55年(1980年)　京泊地区公共埠頭完成
〃　チップ船(川内丸3万トン)初入港



昭和57年(1982年)

昭和62年(1987年)　関税法上の開港指定
平成16年(2004年)　国際定期コンテナ航路(韓国)開設

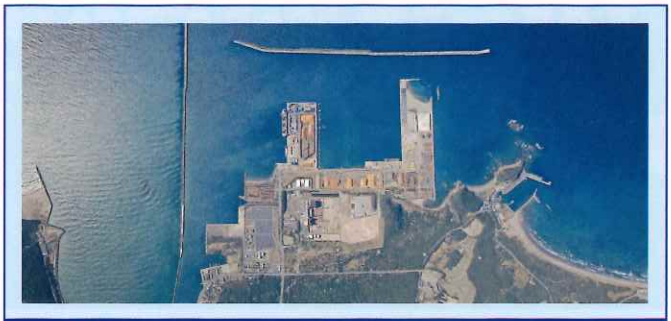
平成17年(2005年)

(写真提供)鹿児島港湾・空港整備事務所、薩摩川内市

平成22年(2010年)　指定保税地域の指定
〃　国際定期コンテナ航路（韓国）の週2便化サービス開始
平成24年(2012年)　鹿児島税関支署川内出張所常駐化
平成26年(2014年)　コンテナ取扱量２万TEU達成
令和元年(2019年)　川内港港湾計画改訂
令和3年(2021年)　川内港唐浜地区国際物流ターミナル整備事業国直轄事業化
令和4年(2022年)　コンテナ取扱量過去最高24,145TEUを記録

令和4年(2022年)

令和5年(2023年)　サーキュラーパーク九州㈱と立地協定を締結
令和8年(2026年)　川内港唐浜地区国際物流ターミナル暫定供用開始
〃　川内港唐浜埠頭へコンテナ船初入港



令和8年(2026年)3月

令和13年(2031年)

唐浜地区国際物流ターミナル完成予想図

薩摩川内港ニュース号外
2026年6月発行

【編集・発行】薩摩川内市貿易振興協会
〒895-0011　鹿児島県薩摩川内市天辰町2211-1
TEL／FAX 0996-25-3300
E-mail:boushin@kssb-satsumasendai.com